

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800424		
法人名	(株)ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家垂水		
所在地	兵庫県神戸市垂水区大町2丁目2-6		
自己評価作成日	平成31年4月15日	評価結果市町村受理日	令和元年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	平成31年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年4月1日に事業所開設となり、地域に愛される、また地域に貢献できる事業所となるように、職員が一丸となり日々励んでいます。ホーム内はこじんまりとした造りではあるが、温かみのあるアットホームな雰囲気を感じて頂けます。特にコミュニケーションを大切にしており、日中に入居者様と職員がゆっくりと会話する機会も多く、安心して過ごして頂いています。また、入居者様同士が楽しそうに会話されている様子も見受けられます。日中は家事手伝いを始め、気候の良い日には散歩や買い物、入居者様のお誕生日日には外食レクなど、入居者様がホームで有意義に過ごして頂けるよう取り組んでいます。
職員の研修においては、法人本部の管理のもと、各事業所の職員を対象に定期的を実施していま

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・法人の人財育成方針及び教育・研修体系にもとづく層別及び接遇マナー、コンプライアンス、人権・虐待防止研修等管理者及び全職員への充実した研修が計画的に実施されている。開設1年目で看取り経験はないが、24時間体制で医師連絡が可能で早期発見を含む医療体制が整備されている。【工夫点】・外出レクリエーションの検討の過程で各フロアで行き来することで相互交流の機会をつくるなど五感刺激のチャンスとし日々の中で工夫を活かしている。・経験豊かなスタッフに恵まれ食事の場では穏やかで楽しい雰囲気への工夫を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、職員全員で共有・実践している。	笑顔のあふれる施設として、チャレンジ、レク、食事、笑顔、穏やかな生活、キレイの5つを明示の理念を玄関に掲げ、開設1年の運営・サービス支援に向け理念の共有化を全体会議や日常会話等で図り実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に地域のボランティアを活用している。また、職員と入居者様と一緒に近隣の商店まで買い物に出かけるなど、地域と関わる機会を持っている。	施設行事に地域の楽器演奏、マジック、風船アート等活用し、近くの喫茶店、コンビニ等地域に関わる外出の機会を推進している段階で、運営推進会議地域メンバーに現況報告をしているが事業所としての地域とのつきあいはこれからの段階である。	運営推進会議参加の自治会長、民生委員等よりの地域情報の入手等による事業所自体が地域の一員として日常的交流を計画的に推進することが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の運営推進会議を通じて、現状の報告を行い、認知症に対する地域(ご家族)の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた、地域の人々からの意見を事業所全体で共有し、サービスの向上・改善に努めている。	家族4~5名、地域包括、自治会長、民生委員、同業他社、法人エリア統括者等参加のもと報告や身体拘束廃止に向けての取組みのひとつとしてセンサーマットはできるだけ使用しない方向の意見交換を進めサービス向上・改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターの担当者や町内会の方に対して、施設の現状や取り組みについて報告している。以前、認知症と思われる地域の高齢者を保護し、地域包括支援センターと連絡を取り対応した。	市担当者と日頃から必要に応じた連絡をしているが、現状は運営推進会議参加の地域包括支援センターや自治会長等との協力レベルの段階である。	市担当者ととの連絡時等を活用し、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝える等、協力関係構築への活動が望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、定期的に研修を行い、職員全員が理解している。現在、フロア扉や玄関扉の開錠には至っていないが、入居者様から要望があればできる限り散歩や外出の機会を持つよう努めている。また、両フロアの行き来も積極的に行っている。	法人研修計画にもとづき年2回管理者が参加し、修了後全職員への伝達研修を実施し、昨今はスピーチロック課題の学びを進めている。玄関錠は安全上施錠しているが、1~2階フロアへの行き来を利用者要望により積極的に支援している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全従業員が必ず年2回は高齢者虐待防止に関する社内研修を受けている。そこで、虐待発見時には、通報義務があることも理解している。施設の全体会議でも虐待について話し合い、施設全体で虐待防止に取り組んでいる。	全職員が必ず2回高齢者虐待防止に関する社内研修(内1回は管理者研修後の伝達研修)を受け、全体会議で忙しい時の声のトーン等も対象になるのでは等虐待防止に向け徹底を図っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、利用者のご家族から申し出があるたびに対応している。	法人研修計画にもとづきコンプライアンス及び人権研修を受け、家族の申し出に応じ、活用できるような支援をしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族様の納得が得られるように説明し、いつでも質問等に応じている。	契約等では、必ず家族の希望を聴き、まかせてもらえる範囲等家族に納得が得られるように十分な話し合い、説明を行い理解・納得を得て契約等行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、ご本人ご家族の意見を聞く機会を持っており、職員で共有・改善を行っている。運営推進会議等でも、ご家族からの意見・ご要望を受け付けている。	日常の細かい事でも家族へ連絡や意見を聞く機会や運営推進会議は常時4~5名の家族参加を得てこれら意見等を職員間で共有・改善し運営に反映している。今回アンケート結果も大多数の方がこれらの報告対応を喜ばれている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、社内アンケートを実施し、社員の意見・提案を聞く機会を設けている。また、個人面談も行っている。	年1回の法人アンケート実施、個人面談等で意見・提案を聞く機会を設け、床の反射音が不眠につながる可能性等業者対応を会社に検討要請等行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の取り組みである誰伸び人事制度を実施し、全員をリーダーにすることを目標とすることで向上心をUPさせている。また、技能段位認定制度を取り入れ、認定結果を手当として介護職の給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的には本社研修が行われ、管理者やフロアリーダー、ケアマネ等が参加している。他の職員への伝達研修も行っている。また、社内のキャリア支援制度を利用し、研修を受けることもできる。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のGHとは、定期的に会議を実施し、訪問・見学を通じて意見交換している。今後グループホーム連絡会への参加も検討しており、同業者との交流やネットワーク作りには取り組みたいと考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートを用いて、本人の生活歴、趣味、ニーズなどをより細かく聞き出し、ケアプラン作成やスタッフ間の情報交換を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなく、ご家族の思いにも耳を傾え、問題解決に向けて一緒に解決できるような関係づくりに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前アセスメントでは、今一番困っていることを尋ね、生活の様子からも今本人が必要としている支援を見極めている。入居後は、職員が情報を共有しチームケアに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと一緒に家事手伝いやフロアの飾りづくりなど積極的に参加して頂くことで、ホームでのご自身の役割を感じられるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から、入居者様の情報をご家族に報告し、ご本人の訴えが強い時、通院が必要になった時には、職員とご家族が協力しながら対応している。また、施設の行事にもご家族をお招きし、ご本人とご家族が接する機会を作っている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人が訪ねてこられた際は、快く受け入れ施設内でゆっくりと過ごしていただいている。また、親せきなど大勢で訪ねてこられた際は、施設の地域交流室を使用していただき、心置きなく過ごせるようスペースも提供している。	本人が培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないように支援している。今までの生活習慣や知人・友人との継続的な交流ができるよう働きかけている。以前の生徒さんが数名で訪れたり親戚の美容師さんがカットに来訪している	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの食席の位置など、一人ひとりが孤立しないような工夫をしている。またスタッフが間に入り会話やレクリエーションを行うことで、入居者様同士が関わる機会を持っている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて電話連絡を行い、ご家族から問い合わせがあれば相談・フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人に直接要望を聞いたり、困難な場合はこれまでの生活歴やご家族の意見を参考にし、本人本位のサービスを検討している。	日々のかかわりの中で声を掛けコミュニケーションを図ることをとても大事にしている。言葉や表情などから真意を推し測り、言葉にしづらい思いを汲み取り把握している。どのように暮らす事が最良なのか職員で話し合い、ご家族からの情報を得て検討している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご本人と直接会って情報収集に努めている。また、ご家族やサービス利用時の担当者からも積極的に情報収集を行い、これまでの生活歴や生活リズムの把握に努めている。スタッフ間でも情報共有し、できるだけご本人の生活リズムに合わせたケアを心がけている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、記録、カンファレンスを通じて、職員間で情報を共有し、入居者様の現状把握に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の様子を記録に残し、必要に応じて往診医やナース、ご家族に報告している。また、サービス担当者会議を通じて、ご本人に必要なケアを検討している。	本人の状況は日々刻々と変化している。具体的な個別計画作成にむけ職員の意見や気づき、要望を反映できるようチェックシートを活用している。現状に即した介護計画を作成するために計画作成者と職員で共有し柔軟かつ臨機応変な対応をしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録と合わせて、重要事項はケアノート(連絡ノート)を使用し、職員間で情報共有することで計画や実践に努めている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の変化に気づき、ご本人やご家族との意見交換を大切にすることで、新たなニーズの発見、サービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染のある地域で買物、地域ボランティアの活用、ご家族との面会などを通じて、本人の生活の質の向上に努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科と医療連携を結んでおり、入居者様の急変時には速やかに対応して頂いている。専門病院受診の際には、すぐにご家族に連絡し協力し合っている。	2週間に1回内科往診を受けている。平日朝は、状況を主治医にFAXで伝え看護師とも連携し早期発見に取り組んでいる。24時間体制も整備され急変時は適切な医療が受けられる。専門医への受診は家族対応となるが車いす送迎の協力はしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を通じて、入居者様の現状報告を行っている。また、介護職では判断できない体調変化などが起これば、24時間電話対応での指示を仰いでいる。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の総合病院と提携し、入院も円滑に行えるシステムも構築している。入院時には、病院の相談員と連絡を密にし、適時、見舞いにも行っている。	利用者が入院した際は、医療機関に対して、なるべく混乱が少ないよう情報提供書を速やかに提出し本人の普段の対応や声掛けの仕方など特徴を伝えている。入院中は病院関係者や連携室と情報交換し家族と協働してなるべく早く退院できるようにアプローチしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化・終末期ケアについて説明しご家族の同意を得ている。必要があれば、早い段階で往診医とご家族、施設職員が集まり、終末期のあり方、緊急時の対応について話し合っている。	重要事項説明時に重度化・終末期のあり方指針を作成し事業所が対応し得る最大のケアについて丁寧に説明して同意を得ている。本人、家族の意向を踏まえ、主治医を中心としてチームで話し合い取り組む。開設後で経験の浅い職員に対して「看取り研修」を実施し計画的に支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルは、施設内に掲示している。又、定期的に本社での研修も行っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は日中・夜間想定での消防避難訓練を行い、スタッフは避難経路・場所の確認、設備の確認ができています。運営推進会議では、ご家族や地域の方に、災害時に少しでもご協力いただけるように働きかけています。	年2回日中、夜間想定での避難訓練を実施し、避難経路、場所、設備確認等運営規程内の非常災害対策にもとづく訓練を実施している。備蓄は、水・食料等整備している。	運営推進会議における協力依頼で止まらず、実施に関し近隣への訓練実施の呼びかけや参加案内などの推進が望まれる。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が接遇マナー、人権擁護について受講しており、利用者様一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けている。	年長者として敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応にならないよう常にプライバシーを損ねるような言葉がけをしないよう日常的に確認しあい改善に努めている。年2回全体研修等を行い、声掛けや伝え方をグループワークを通し学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の声掛けや買い物の際には、できるだけご本人に希望を聞いた上でやっている。また、ティータイム時の飲み物も、ご本人の希望があれば、できるだけ希望に沿い、自己決定の機会を持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・更衣等の場面において常に声掛けを徹底することで、個々の生活ペースを尊重するように心がけている。散歩等の訴えがあった時にはなるべく希望にそようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には、利用者様ご本人に服を選んで頂いている。その他の方は、スタッフが一緒に選んだり、ご本人の表情から気持ちを汲み取り、好みや季節に合った服装をして頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、買い物・調理・配膳等を手伝っていただき、入居者様のADLIに合わせて力を発揮して頂いている。	食事が楽しみとなるよう時々利用者と相談しながらその日のメニューを決めている。職員の見守りや支えで調理や盛り付け、配膳等を共に行うことができます。また職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事ができる雰囲気作りを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事量・水分量を介護記録に残し、不足を確認することで、入居者様の体調管理に努めている。こまめな水分摂取も心掛けている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助を行っている。毎週、訪問歯科の口腔ケアも受けており、必要に応じて治療も行われる。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録を参考に、排泄のパターンを確認し、カンファレンスで自立に向けたケアを検討・実践している。	自尊心に配慮し利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じてお手伝いをしている。時間がかかってもできる場所は見守る。カンファレンスで対応やケア方針の検討を繰り返し実践し、パット交換への移行を実現、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が見られる入居者様には、牛乳・ヨーグルト・食物繊維を摂取して頂き、食事での排便を促している。また、医師や看護師に相談し、腹部マッサージやお薬の調整を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、できるだけご本人の希望に沿って入浴して頂いている。また、入浴剤や季節が感じられるものを入れ、入浴を楽しんで頂けるように工夫している。	週2回は入浴している。曜日は特に決めていないのでその日の希望を確認し入っていたい。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援している。職員と1対1で会話する機会であったり、異性職員の介護の場合は、心情面に特に配慮し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣を考慮し、休息を取って頂いている。夜間、入眠時間の短かった方には、昼寝を勧めるなど、体調管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、申し送りやノートへの記入を行い、報告・連絡・相談を徹底することで、現状の把握や様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内でのレクリエーションや家事手伝いにお誘いし、積極的に参加して頂いている。また、散歩や買い物など外出の機会を持って頂き、できるだけ刺激ある生活を送って頂けるよう支援している。一人ひとりの嗜好品や楽しみごとに対しては、更なる工夫が必要かと思われる。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様から希望があれば、できるだけ屋外へ出る機会を持っている。また、日常の会話の中で、普段行けないような場所への外出希望があれば、ご家族に声をかけたり、職員が同行して外出していただくこともある。	利用者が屋内だけで過ごすストレスがたまりやすく、短時間でも戸外に出る機会を作っている。「今できることを今やって欲しい。」事業所として外出レクに力を入れている。職員と昔ながらの喫茶店へ2～3名で出かけたり、各フロアで行き来することで相互交流の機会をつくるなど五感刺激のチャンスとし日々の中で工夫を活かしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお金で必要に応じて、入居者様の希望する物を購入している。又、個々の能力に応じて、スタッフと一緒に支払いもしていただいている。お金の不安を訴えられる方には、ご家族に了承を得て、ご本人に財布やお金を所持して頂くことが		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	予めご家族の了承を得て、ご本人より訴えがあった場合など、必要に応じてご家族と連絡を取って頂いている。また、家族や知人との手紙のやり取りができるように、スタッフがお手伝いしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には、スタッフと入居者様で協力して作成した季節の飾り付けをしたり、外出やイベント時の写真を掲示している。又、入居者様が快適に過ごせるよう、室温等には常に注意している。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないよう配慮し、利用者と一緒に作成した季節の飾り付けや外出やイベント参加の写真を掲示し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファ、居室など利用者様にとって居心地がよい場所で過ごして頂いている。気の合う利用者様同士で、楽しそうに会話されることも多い。両フロアの行き来も積極的に行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来る限り自宅で使っていた家具を持ってきて頂いている。又、ご本人の希望によって必要なものを持ち込んで頂き、快適に過ごして頂けるよう工夫している。	入居時に家族と相談し出来るだけ自宅で使用していた写真や仏壇等本人の希望に沿ったものを持ち込み快適に居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あらゆる処に手すりが設置されている等、入居者様の安全・自立を考慮した造りになっている。		